

[引受保険会社]



〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

変額保険 グローバルミックス

月次運用レポート

2013年9月

[利用する投資信託の委託会社]

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募	
債券 50%			

特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の月次運用レポート (2013年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2013年9月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前月末比7.96%上昇の1,194.10ポイントで終了しました。
月前半は、2020年夏季五輪開催地が東京に決定したことや、4-6月期GDP(国内総生産)成長率が上方修正されたこと、シリア情勢への警戒感の後退などから上昇しました。月後半は、米国の量的緩和縮小の見送りや日本における法人税減税検討の報道などから上昇しましたが、米国での財政協議の先行き不透明感などから上値が重い展開となりました。
業種別(東証33業種)では、株式相場全体が大幅上昇する中、「その他金融業」(前月末比+20.79%)が最も上昇した一方、下落した業種はありませんでした。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、シリア情勢への警戒感の後退や、8月のISM(全米供給管理協会)製造業景況指数などの経済指標が良好だったことを受けて上昇しました。月後半は、FOMC(米連邦公開市場委員会)で量的緩和縮小が見送られたことなどから上昇する一方、月末にかけては米国の財政協議の先行き不透明感などから下落しましたが、月を通してみると、NYダウは、前月末比2.16%上昇の15,129.67ドルで終了しました。
欧州株式市場は、月前半、シリア情勢の警戒感の後退などにより上昇しました。月後半は、米国における量的緩和縮小の見送りなどから上昇した後、月末にかけては、イタリアの連立政権存続への危機が高まったことなどにより下落しましたが、月を通してみると、市場別騰落率は、英FT100が前月末比0.77%上昇、仏CAC40が同5.33%上昇、独DAXが同6.06%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、国内株式の上昇を背景に金利は上昇(価格は下落)した後、米国の市場予想を下回る雇用統計などを背景に低下(価格は上昇)しました。月後半は、国債需給の逼迫感の強まりや、米国における量的緩和縮小の見送りなどを背景に低下基調で推移しました。新発10年国債利回りは0.680%となりました(前月末は0.720%)。
日銀はマネタリーベースが年間約60~70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、月前半、米国の良好な経済指標などにより9月中にも量的緩和縮小が決定されるとの見方が強まり、金利は上昇(価格は下落)した後、米国の市場予想を下回る雇用統計などにより低下(価格は上昇)しました。月後半は、FOMCで量的緩和縮小が見送られたことや財政協議の先行き不透明感などから低下し、米10年国債利回りは、月末は2.610%となりました(前月末は2.784%)。
欧州債券市場は、月前半、シリア情勢への警戒感の後退などから上昇(価格は下落)基調で推移しました。月後半は、米国の財政協議の先行き不透明感などにより低下(価格は上昇)基調で推移し、独10年国債利回りは、月末は1.779%となりました(前月末は1.856%)。
FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0.50%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、月前半、米国の市場予想を下回る雇用統計などにより円高となる場面がありましたが、シリア情勢への警戒感の後退などから円安が進行しました。月後半は、米国の量的緩和縮小の見送りや米国の財政協議の先行き不透明感などにより円高が進行する一方で、日本における法人税減税検討の報道などにより円安となるなど、揉み合いで推移し、円は対ドルで前月末比61銭(0.62%)円高ドル安の1ドル=97円75銭となりました。
ユーロ/円相場は、月前半、シリア情勢への警戒感の後退などから円安基調で推移しました。月後半は、米国の量的緩和縮小の見送りなどによりユーロが買われた一方、米国の財政協議の先行き不透明感やイタリアの連立政権存続への危機が高まったことなどを背景に円高となりましたが、月を通してみると、円は対ユーロで前月末比1円63銭(1.25%)円安ユーロ高の1ユーロ=131円87銭となりました。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

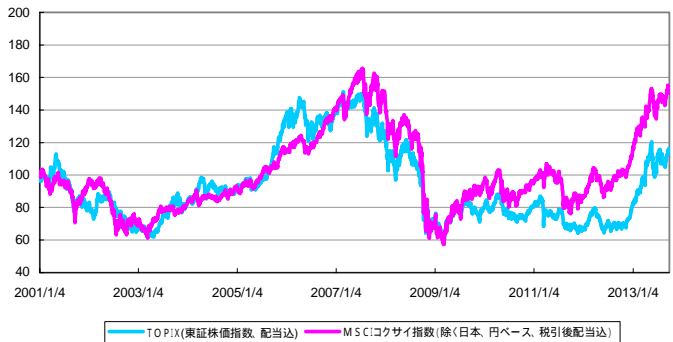
お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

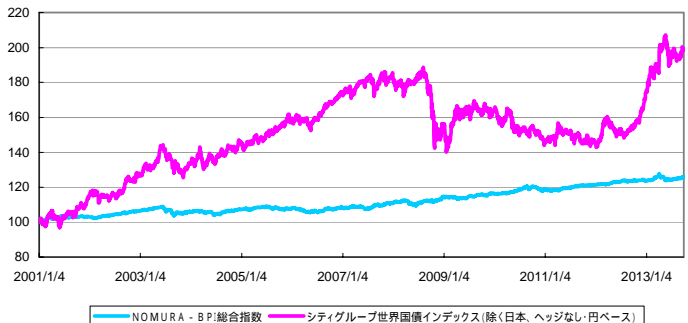
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

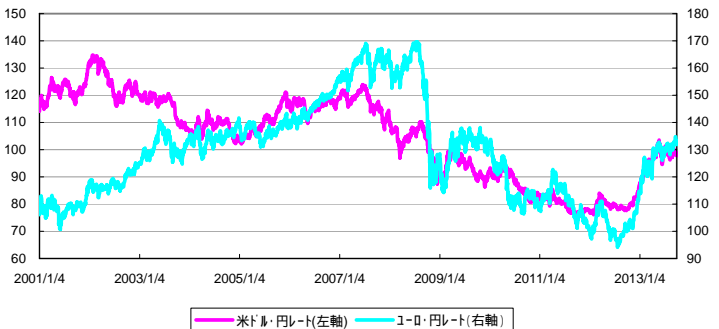


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

変額保険

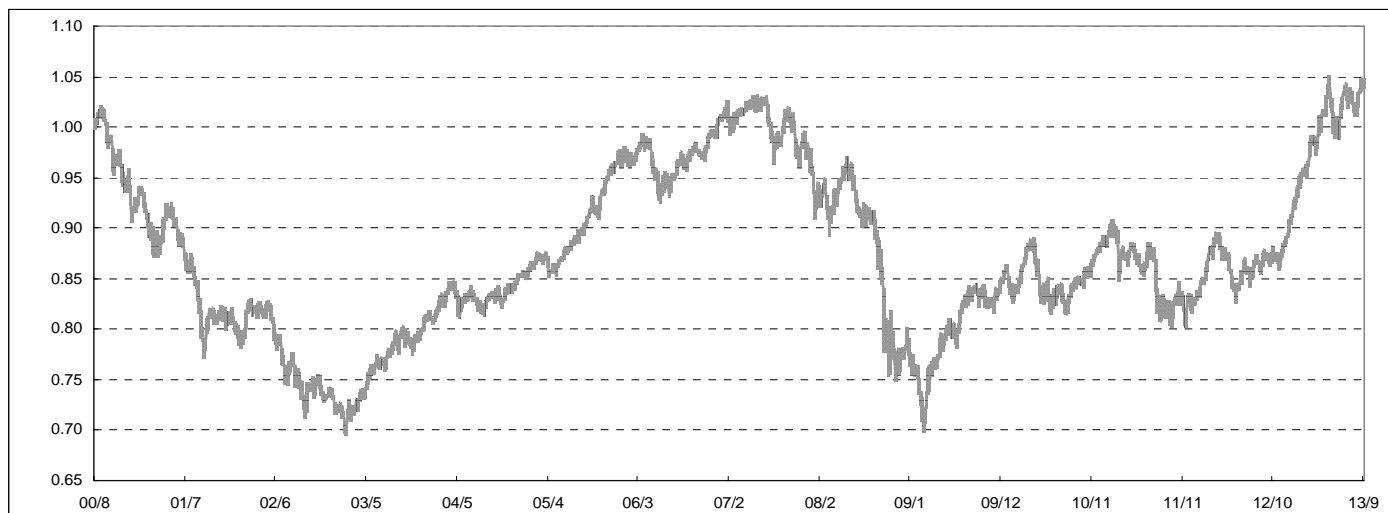
特別勘定の月次運用レポート (2013年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2013年9月 末日現在]

特別勘定のINDEXの推移

特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2013年9月末	2013年8月末	2013年7月末	2013年6月末	2013年5月末	2013年4月末
INDEX	1.040	1.011	1.022	1.008	1.018	1.015
騰落率 (%)	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
騰落率 (%)	2.84	3.11	5.52	19.61	23.38	3.98

特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,691,585	4.2
その他有価証券	38,537,522	95.8
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	3,922,603	9.8
アクサ ローゼンバーグ・日本バリューストックファンド(B)	5,848,675	14.5
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	6,248,640	15.5
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	4,139,013	10.3
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	18,378,589	45.7
合計	40,229,108	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は四捨五入しました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。
資産配分につきましては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)
今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

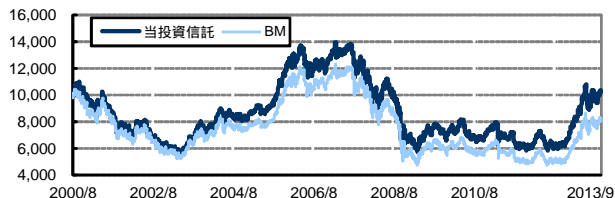
特別勘定の月次運用レポート (2013年9月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年9月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	8.03%	5.15%	13.55%	63.55%	50.05%	0.73%
BM	7.96%	5.31%	15.40%	61.93%	43.95%	19.46%
差	0.07%	0.17%	1.85%	1.62%	6.10%	20.19%

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報

業種別構成比率

業種	マザー・ファンド
1 輸送用機器	12.52%
2 銀行業	11.66%
3 電気機器	9.90%
4 情報・通信業	6.83%
5 卸売業	6.64%
6 小売業	6.16%
7 化学	5.09%
8 医薬品	4.00%
9 その他業種	35.53%
10 現金等	1.67%
合計	100.00%

市場別構成比率

市場	マザー・ファンド
1 東京証券取引所第一部	98.33%
2 現金等	1.67%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザー・ファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.87%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.63%
3 日本電信電話	情報・通信業	2.26%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.88%
5 ソフトバンク	情報・通信業	1.69%
6 本田技研工業	輸送用機器	1.68%
7 KDDI	情報・通信業	1.45%
8 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.42%
9 キヤノン	電気機器	1.33%
10 日産自動車	輸送用機器	1.20%
合計		21.41%
組入銘柄数		265銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+8.03%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比+7.96%となりました。当月の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しましたが、委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落した食品やソフトウェアを少なめに保有していたことや上昇した銀行を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇した電力や金属を少なめに保有していたことや、下落した小売を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、上昇した住金物産(9938)、東日本銀行(8536)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した日本電信電話(9432)を多めに保有していたことや、上昇した日本取引所グループ(8697)や東京電力(9501)を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ~8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

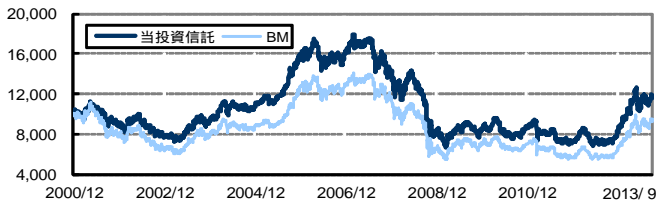
特別勘定の月次運用レポート (2013年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年9月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	7.66%	4.38%	11.74%	61.18%	47.25%	16.39%
BM	7.96%	5.31%	15.40%	61.93%	43.95%	7.38%
差	0.30%	0.94%	3.66%	0.75%	3.30%	23.77%

マザーファンド受益証券の詳細情報 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 輸送用機器	13.32%
2 銀行業	10.10%
3 電気機器	9.05%
4 化学	7.93%
5 医薬品	7.36%
6 情報・通信業	7.15%
7 卸売業	5.92%
8 陸運業	5.27%
9 その他業種	31.41%
10 現金等	2.49%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.75%
2 日本電信電話	情報・通信業	3.36%
3 キヤノン	電気機器	3.12%
4 トヨタ自動車	輸送用機器	2.96%
5 KDDI	情報・通信業	2.70%
6 東海旅客鉄道	陸運業	2.68%
7 伊藤忠商事	卸売業	2.55%
8 日産自動車	輸送用機器	2.55%
9 オリックス	その他金融業	2.39%
10 第一三共	医薬品	2.09%
合計		29.15%
組入銘柄数		114銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+7.66%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比+7.96%となりました。当月の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇したREITや投資会社、その他金融を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇した金属と電力を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したオリックス(8591)や名村造船所(7014)、東海旅客鉄道(9022)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した大塚ホールディングス(4578)や日産自動車(7201)、イオン(8267)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	97.09%
2 東京証券取引所第二部	0.36%
3 ジャスダック証券取引所	0.04%
4 名古屋証券取引所第一部	0.01%
5 名古屋証券取引所第二部	0.00%
6 現金等	2.49%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ~8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

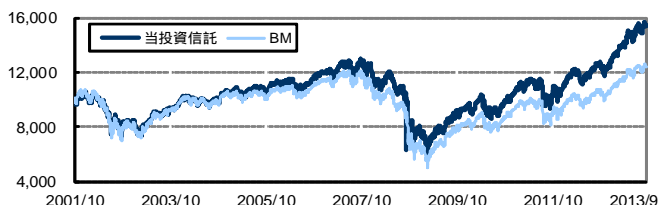
特別勘定の月次運用レポート (2013年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年9月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	3.63%	5.90%	10.28%	22.80%	60.74%	54.23%
BM	3.26%	4.82%	7.71%	16.62%	46.31%	24.01%
差	0.37%	1.07%	2.57%	6.19%	14.43%	30.22%

マザーファンド受益証券の詳細情報 セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 ソフトウェア・サービス	9.95%
2 各種金融	9.34%
3 エネルギー	9.07%
4 医薬品バイオテクノ・ライフ	8.64%
5 資本財	8.41%
6 食品・飲料・タバコ	6.73%
7 テクノロジー・ハードウェア	5.64%
8 ヘルスケア機器・サービス	5.07%
9 その他業種	35.43%
10 現金等	1.72%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.54%
2 JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	各種金融	2.13%
3 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	2.13%
4 PFIZER INC	アメリカ	医薬品バイオテクノ・ライフ	2.04%
5 WAL-MART STORES INC	アメリカ	食品・生活必需品小売	1.34%
6 COMCAST CORP-CL A	アメリカ	メディア	1.34%
7 ORACLE CORPORATION	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.34%
8 CISCO SYSTEMS INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	1.28%
9 WELLS FARGO & COMPANY	アメリカ	銀行	1.27%
10 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.27%
合計			16.69%
組入銘柄数			227銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+3.63%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前月末比+3.26%となりました。

当月の米国株式市場は、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇した耐久消費財や繊維を多く保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したITハードウェア、機械、REITを少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したソフトウェア・サービスのYahoo! Incや食品・生活必需品小売りのSafeway IncとKroger Co/Theを多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落したソフトウェア・サービスのSymantec Corpや医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンスのEli Lilly & Coを多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²

(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ~8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

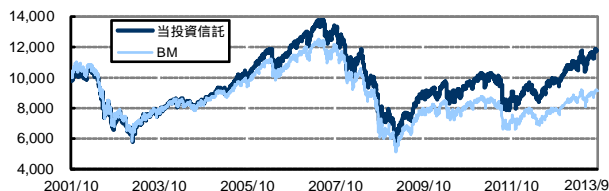
特別勘定の月次運用レポート (2013年9月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年9月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	3.74%	8.71%	8.73%	20.93%	26.16%	17.34%
BM	3.26%	7.90%	5.90%	16.47%	13.77%	9.32%
差	0.48%	0.81%	2.83%	4.46%	12.39%	26.66%

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式
マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報

国別構成比率		マザーファンド
順位	国名	
1	イギリス	29.55%
2	フランス	14.21%
3	ドイツ	13.89%
4	スイス	13.27%
5	オランダ	7.88%
6	スウェーデン	4.50%
7	スペイン	4.48%
8	イタリア	2.71%
9	その他の国	8.57%
10	現金等	0.94%
合計		100.00%

セクター別構成比率

順位	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテク・ライフ	11.04%
2	銀行	9.69%
3	資本財	8.72%
4	食品・飲料・タバコ	8.56%
5	エネルギー	8.17%
6	電気通信サービス	7.12%
7	保険	6.21%
8	素材	6.11%
9	その他業種	33.43%
10	現金等	0.94%
合計		100.00%

組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	3.00%
2	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテク・ライフ	2.31%
3	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	2.19%
4	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.11%
5	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテク・ライフ	2.08%
6	ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	オランダ	エネルギー	2.02%
7	ROCHE HOLDING AG-GENUSS	スイス	医薬品・バイオテク・ライフ	1.74%
8	VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	1.59%
9	ROYAL DUTCH SHELL PLC-B SHS	オランダ	エネルギー	1.47%
10	TELEFONICA S.A.	スペイン	電気通信サービス	1.37%
合計				19.91%
組入銘柄数				188銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+3.74%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前月末比+3.26%となりました。

当月の欧州株式市場は、市場の動きと連動した動きを示す銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇した小売およびITハードウェアを多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した医薬品やソフトウェアを多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で上昇したテクノロジー・ハードウェアおよび機器のNokia Corporation(フィンランド)や資本財のSiemens Ag(ドイツ)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンスのGlaxosmithkline Plc(イギリス)やエネルギーのRoyal Dutch Shell Plc(オランダ)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額保険

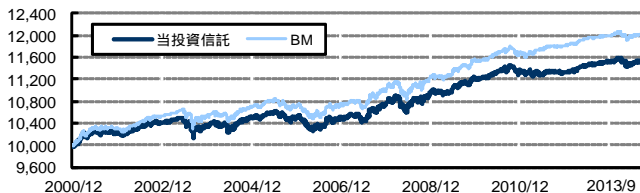
特別勘定の月次運用レポート (2013年9月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年9月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.23%	0.65%	0.15%	0.62%	1.15%	15.61%
BM	0.19%	0.53%	0.06%	0.61%	2.41%	20.48%
差	0.04%	0.12%	0.09%	0.01%	1.26%	4.87%

マザーファンド受益証券の詳細情報 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.46年	99.16%
国債	5.15年	74.66%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	1.72年	5.77%
金融債	1.15年	0.94%
社債等	2.61年	17.80%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.00年	0.84%
合計	4.42年	100.00%

* 債券先物を含みます。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	88.05%
A	10.05%
BBB	1.90%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

海外格付機関の格付を優先します。
海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第303回利付国債(10年)	日本	1.400%	2019年9月20日	Aa3	AA-	8.52%
2	第300回利付国債(10年)	日本	1.500%	2019年3月20日	Aa3	AA-	5.94%
3	第106回利付国債(5年)	日本	0.200%	2017年9月20日	Aa3	AA-	5.81%
4	第305回利付国債(10年)	日本	1.300%	2019年12月20日	Aa3	AA-	5.46%
5	第101回利付国債(5年)	日本	0.400%	2016年12月20日	Aa3	AA-	3.87%
6	第100回利付国債(5年)	日本	0.300%	2016年9月20日	Aa3	AA-	3.57%
7	第109回利付国債(5年)	日本	0.100%	2018年3月20日	Aa3	AA-	3.26%
8	第295回利付国債(10年)	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	2.98%
9	第326回利付国債(10年)	日本	0.700%	2022年12月20日	Aa3	AA-	2.96%
10	第298回利付国債(10年)	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	2.96%
合計							45.33%
組入銘柄数							47銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.32%
平均クーポン	1.17%
平均残存期間	4.56

「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+0.23%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前月末比+0.19%となりました。

長期金利の上昇が米国経済、特に住宅市場に与える悪影響を理由として、米連邦公開市場委員会(FOMC)が量的緩和縮小を見送ったことを受けて、米国の債券利回りは大きく低下しました。為替は主要通貨に対して概ね円安の動きとなりました。日本経済指標については、4~6月期の法人企業統計調査で、円高修正による輸出の増加等を背景に、設備投資と経常利益が改善していることが示されました。また、4~6月期の実質GDP成長率は、速報値の前期比年率+2.6%から同+3.8%へと上方修正されました。当月の10年国債利回りは、米回国債利回りの低下と歩調を合わせて、0.04%低下の0.68%となりました。

銀行貸出が大きく伸びていないように金融政策の実体経済への波及効果は見られていない一方で、日銀は当面もう一段の金融緩和措置に踏み込むつもりはないとみえており、日本国債市場はレンジ内取引が当面続くものと見られます。今後の当投資信託の方針としては、引き続き、イールドカーブ戦略では平坦化を見込む戦略を維持し、デュレーション戦略はベンチマークと同等の水準とする予定です。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ~8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証が有しています。
東証は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S & P 500種株価指数」とは、スタンダード・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・プアーズ社に帰属しています。S & P 500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S & P 500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

変額保険のリスクについて

市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

契約月別の運用実績の例

(一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合)

契約日	終身型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成12年 8月 1日	1,000	-497	3.98	0.30
平成12年 9月 1日	1,000	-504	2.44	0.18
平成12年 10月 1日	1,000	-483	5.37	0.40
平成12年 11月 1日	1,000	-465	7.76	0.58
平成12年 12月 1日	1,000	-445	10.50	0.78
平成13年 1月 1日	1,000	-427	12.94	0.96
平成13年 2月 1日	1,000	-437	10.88	0.82
平成13年 3月 1日	1,000	-404	15.62	1.16
平成13年 4月 1日	1,000	-384	18.21	1.35
平成13年 5月 1日	1,000	-406	14.45	1.09
平成13年 6月 1日	1,000	-398	15.15	1.15
平成13年 7月 1日	1,000	-385	16.75	1.27
平成13年 8月 1日	1,000	-360	20.19	1.52
平成13年 9月 1日	1,000	-323	25.35	1.89
平成13年 10月 1日	1,000	-277	31.76	2.33
平成13年 11月 1日	1,000	-292	29.06	2.16
平成13年 12月 1日	1,000	-297	27.87	2.10
平成14年 1月 1日	1,000	-296	27.47	2.09
平成14年 2月 1日	1,000	-270	30.95	2.34
平成14年 3月 1日	1,000	-276	29.49	2.26
平成14年 4月 1日	1,000	-289	27.14	2.11
平成14年 5月 1日	1,000	-282	27.69	2.16
平成14年 6月 1日	1,000	-284	26.96	2.13
平成14年 7月 1日	1,000	-248	31.87	2.49
平成14年 8月 1日	1,000	-215	36.45	2.82
平成14年 9月 1日	1,000	-212	36.44	2.84
平成14年 10月 1日	1,000	-183	40.32	3.13
平成14年 11月 1日	1,000	-180	40.31	3.15
平成14年 12月 1日	1,000	-192	37.87	3.01
平成15年 1月 1日	1,000	-166	41.49	3.28
平成15年 2月 1日	1,000	-140	44.87	3.54
平成15年 3月 1日	1,000	-133	45.44	3.60

契約日	終身型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	-129	45.61	3.64
平成15年 5月 1日	1,000	-143	42.64	3.47
平成15年 6月 1日	1,000	-156	40.19	3.32
平成15年 7月 1日	1,000	-172	37.25	3.14
平成15年 8月 1日	1,000	-180	35.50	3.03
平成15年 9月 1日	1,000	-187	34.00	2.95
平成15年 10月 1日	1,000	-188	33.40	2.92
平成15年 11月 1日	1,000	-196	31.58	2.81
平成15年 12月 1日	1,000	-192	31.79	2.85
平成16年 1月 1日	1,000	-201	30.01	2.73
平成16年 2月 1日	1,000	-210	28.16	2.60
平成16年 3月 1日	1,000	-219	26.35	2.47
平成16年 4月 1日	1,000	-230	24.32	2.32
平成16年 5月 1日	1,000	-227	24.27	2.33
平成16年 6月 1日	1,000	-216	25.35	2.45
平成16年 7月 1日	1,000	-225	23.66	2.32
平成16年 8月 1日	1,000	-208	25.67	2.52
平成16年 9月 1日	1,000	-206	25.42	2.53
平成16年 10月 1日	1,000	-204	25.22	2.53
平成16年 11月 1日	1,000	-199	25.50	2.58
平成16年 12月 1日	1,000	-207	23.85	2.45
平成17年 1月 1日	1,000	-219	21.78	2.28
平成17年 2月 1日	1,000	-217	21.65	2.29
平成17年 3月 1日	1,000	-227	19.74	2.12

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成25年9月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年複利は契約月別運用実績を年複利換算したものです。

(4) 終身型は、平成17年3月31日で販売終了しています。

(5) 有期型は平成14年10月31日で販売終了しています。平成24年10月31日で全ての契約が保険期間を満了しました。